

基 調 講 演

テーマ：土石流の発生が社会に与えるインパクトの評価について

講 師：山口大学大学院創成科学研究科 教授 中田 幸男



略 歴

- 1990年3月 山口大学工学部土木工学科卒業
- 1992年3月 山口大学大学院工学研究科修士課程建設工学専攻修了
- 1995年3月 山口大学大学院 工学研究科博士後期課程設計工学専攻修了
- 1995年4月 山口大学助手（工学部）
- 1999年6月 山口大学助教授（工学部）
- 2000年10月 Visiting Scholar in Cambridge University
- 2006年4月 山口大学助教授（大学院理工学研究科）
- 2009年4月 山口大学教授（大学院理工学研究科）

研究活動・著書他

- 2007年ー 国土交通省中国地方整備局 道路防災ドクター
- 2006年ー 山口県土木建築部 技術アドバイザー
- 2014ー2016年 地盤工学会理事（調査研究部担当）
- 2019年ー 国際地盤工学会 Technical Committee TC105 Secretary
- 平成13年度 地盤工学会研究奨励賞
- 平成25年度 地盤工学会研究論文賞
- 平成28年度 地盤工学会功労賞

講演概要等

降雨特性の変化とともに、土砂災害の規模や頻度が大きく増加してきている。土砂災害の中でも、土石流災害は特に発生すると社会に与えるインパクトが大きく、この防災・減災対策は緊迫した状況にある。一方で、土石流発生危険性の高い溪流は数え切れず、すべての溪流に万全の対策を施すことは経済的にも不可能である。このため、対策すべき溪流の優先度を明確にするための手法や適正な対策を検討するための手法などが必要になる。加えて、これらの手法の確度の保つために、土石流発生時のインパクトの評価方法の確立が必要不可欠である。

本基調講演は、土石流の発生が社会に与えるインパクトの評価について、一連の検討を紹介する。まず、土石流災害の発生・非発生の評価に対する検討について紹介する。次いで、土石流発生時のインパクトに大きくかわる流出土砂量の算定に関わる調査について紹介する。ここでは侵食幅の原位置調査結果について説明する。その上で、土石流の発生が社会に与えるインパクトの評価に対する検討事例について紹介する。

（参考文献）

- 1) Y. Inomata and Y. Nakata, Topographical characteristics and model test behaviour for occurrence region of debris flow at Hiroshima in August 2014, Proc. 16ARC, 2019.
- 2) 村上豊和, 下野宗彦, 柳迫新吾, 中田幸男, 現地調査による地質毎の移動可能土砂量および浸食特性の統計的評価, 土木学会論文集 C (地圏工学), Vol. 75, No. 1, pp. 1-14, 2019.
- 3) 村上豊和・下野宗彦・中田幸男, 高速道路に影響を与える土石流危険溪流の資料調査に基づく評価手法, 地盤工学会中国支部 論文報告集 地盤と建設, Vol. 34, No. 1, pp. 19-27, 2016.